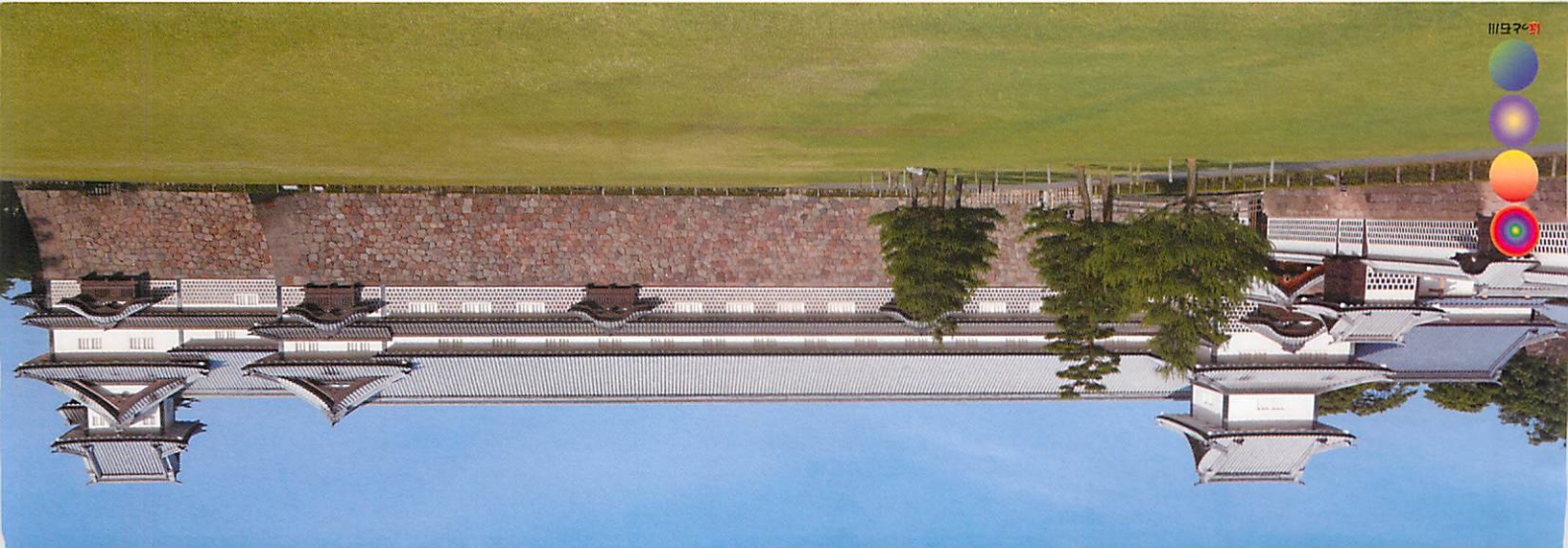




金沢城公園 菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓・橋爪門



入館のご案内

- 開館時間／AM9:00～PM4:30
- 休館日／年中無休
- 入館料／大人 310円(団体250円)
小人 100円(団体80円)
※団体は30人以上
- 交通のご案内
バス／兼六園地下車 石川門経由 徒歩5分
香林坊下車 玉泉院丸口経由 徒歩7分
尾張町下車 大手門口経由 徒歩15分
タクシー／金沢駅から約10分
自動車／北陸自動車道金沢西インターから約30分
北陸自動車道金沢東インターから約30分
北陸自動車道金沢森本インターから約20分



お問い合わせ

石川県金沢城・兼六園管理事務所 〒920-0937 金沢市丸の内1番1号
TEL. 076-234-3800 FAX. 076-234-5292
<http://www.pref.ishikawa.jp/siro-niwa/>

金沢城菱櫓等復元要旨

●前田利家は加賀百万石前田家の祖です。尾張荒子(現名古屋市中川区荒子町)の土豪前田利昌の四男として生まれ、織田信長に従い、大名としての基を築きました。幼名大千代、前名又左衛門。武勇の誉れ高く「槍の又左」の異名があります。●豊臣秀吉とは大千代時代からの交わりです。信長の時代には、近江長浜、越前府中、能登七尾の城主となりましたが、秀吉と柴田勝家の戦いの後、秀吉と提携し、天正11年(1583)金沢城に入城しました。●金沢城は、寛永8年(1631)の火災以降、本丸の機能が次第に二の丸へと移されました。菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓の形もこのころに整備されたと考えられています。17世紀の終わりに、二の丸には「千疊敷の御殿」と呼ばれるほど壮麗な建物となりました。そして、宝暦9年(1759)の火災を機に、完全に本丸から二の丸中心の城へと変化したのです。二の丸の建物は宝暦9年(1759)、文化5年(1808)の二回大きな火災を受け、そのつと再建され、明治期まで存続しました。

●菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓は資料に基づき史実を尊重し、文化6年(1809)に再建された形に復元し、日本古来の伝統工法により建設しました。構造は柱と梁・桁による木造軸組と土壁・畳を組み合わせた耐力壁によって構成し、部材の接点は継手や仕口を用いて繋結を図っています。明治以降の木造郷土建築物としては全国的にも大規模なもので、建物の耐用年数は200～250年を想定しています。また、現代工法として、鉄筋コンクリートの基礎やスラブ・設備等を設け、さらにバリアフリーを考慮した階段昇降機、エレベーターを設けています。

前田利家と金沢城

金沢城建築関係略年表

- 1516 (天文15) 金沢御堂(尾山御坊)小立野台地に創建。
- 1583 (天正11) 前田利家、石川・河北両郡を豊臣秀吉より拝領し、金沢城入城。
- 1592 (文禄1) 文祿の役。金沢城大修築。百間堀(運堀)、いもり堀、白鳥堀等掘る。落雷により天守・本丸の建物焼失。
- 1602 (慶長7) 金沢城火災、本丸御殿焼失。
- 1620 (元和6) 金沢城火災、本丸御殿焼失。
- 1621 (元和7) 本丸御殿再建。(四月)
- 1631 (寛永8) 金沢城下大火、城内本丸御殿焼失。
- 1632 (寛永9) 二の丸御殿焼失。
- 1642 (寛永19) 二の丸御殿焼失。辰巳用水がでる。
- 1649 (寛永16) 金沢城北の丸に東照宮造営。
- 1659 (宝暦9) 金沢城下大火、城内本丸御殿焼失。
- 1672 (宝暦12) 二の丸御殿・橋爪門焼失。石川門普請開始。
- 1788 (天明8) 石川門焼失。
- 1808 (文化5) 二の丸御殿より出火。菱櫓等焼失。
- 1809 (文化6) 二の丸御殿上棟式。橋爪門造営成る。
- 1810 (文化7) 二の丸御殿成る。
- 1822 (文政5) 松平定信、兼六園の創を告す。竹沢御殿成る。
- 1837 (天保8) 竹沢御殿に泉水成る。霞ヶ池を掘る。
- 1858 (安政5) 金沢大地震。本丸三十間長屋上棟式。
- 1881 (明治14) 二の丸御殿、橋爪門、五十間長屋等焼失。
- 2001 (平成13) 菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓復元。
- 2010 (平成22) 河北門・いもり堀復元。
- 2015 (平成27) 玉泉院丸庭園完成。



菱櫓

二の丸で一番高い三層の物見櫓。尾坂門、河北門、石川門を一望できる。石落しを多く持ち、実戦的で、なおかつ華やかな櫓。

橋爪門続櫓

二の丸大手の橋爪門枳形に付随する三層の物見櫓。三の丸で戦闘が起きたときの指揮所。

五十間長屋

菱櫓と橋爪門続櫓を結ぶ二層の多間櫓。普段は倉庫として用いられるが、非常時は戦闘のための砦となる。石落しを各所に備え、格子窓は鉄砲狭間となる。

鶴の丸土堀

土堀の三の丸側の腰部は海鼠壁で覆われている。鉄砲狭間は隠し狭間で、通常は海鼠壁の板瓦でふさがれている。堀の内部には小石が詰められている。

橋爪門

高麗門形式の「一の門」、石垣と二重堀で囲まれた「枳形」、櫓門形式の「二の門」からなる枳形門で、枳形は城内最大の規模を誇る。二の丸の正門として、最も格式の高い門であった。

橋爪門一の門

橋爪門二の門

展示物リスト

一階展示物

- 菱櫓柱脚部展示 (透視展示)
- 石落し
- 海鼠壁断面模型
- 建具(土戸)断面模型
- 屋根軒先部分模型
- 壁断面展示 (透視展示)
- 内堀と石垣の発掘
- 城内の発掘

伝統木造工法

日本に古くから伝わる木造軸組の工法。柱・梁を組み合わせ、小屋を架ける。柱は桧、角梁は米ヒバ、小屋梁には松丸太を用い、他に能登ヒバ、赤杉など県産材を用いている。使用した木材6,190石の約7割の4,221石が県産材。

出窓

石垣をよじ登る敵を防ぐために設けられた。出窓床板を開き石を落す。三面の窓は鉄砲狭間となる。

復元整備の概要(建築物)

区分	菱櫓	五十間長屋	橋爪門続櫓	橋爪門	鶴の丸土堀
規模	木造三層三階建	木造二層二階建	木造三層三階建	【一の門】 高麗門(脇堀付) 鉛瓦葺 屋根高(石垣上) H=7.03m 門幅 W=4.62m 【二の門】 櫓門 入母屋造り 屋根高 H=12.78m 門幅 W=14.36m 【枳形二重堀】 切妻造り 矩折延長 46.96m (出し含む枳形内側)	土堀(二重堀) 木芯土堀柱付 唐破風石落し・ 鉄砲狭間付 鉛瓦葺 屋根高(石垣上) H=2.91m 延長 L=62.12m
構造	入母屋造り 唐破風石落し付 鉛瓦葺 海鼠壁及び 総漆喰塗込壁 屋根高(石垣上) H=17.34m 延べ床面積 A=255.35㎡	入母屋造り 唐破風石落し付 鉛瓦葺 海鼠壁及び 総漆喰塗込壁 屋根高(石垣上) H=9.35~10.08m 延べ床面積 A=1384.95㎡	入母屋造り (一部寄棟造り) 唐破風石落し付 鉛瓦葺 海鼠壁及び 総漆喰塗込壁 屋根高(石垣上) H=14.69m 延べ床面積 A=253.93㎡		
		延べ床面積 A=1,894.23㎡(573坪)	延べ床面積 A=136.18㎡(41坪)		

床下軸組および壁の透視展示

菱櫓一階の床下部分と二の丸側壁面部分にガラスを入れ、内部に隠れた部分の様子が分かるよう工夫されている。